

## シリーズ・編集部座談会 《こんな話&amp;あんな話》

新型コロナの影響を逆に良い方向へと導く方法はある？  
新型コロナ騒動を《踏み台》に業界が飛躍する道を探る①

【出席者＝本紙編集部一同】

## ☆新型コロナの災いを福に転じるには？

**司会者** 今や新型コロナウイルスの話題を抜きには何事も語れない状況になっているよね。恐れていた建設現場でのクラスターの発生は、思っていたほどには出ていないけど、ちらほらニュースになり始めている。

ただ、明るい材料は何もないみたいを感じるかもしれないけど、逆にこういう状況だからこそ考えられる明るい道、新たな道もあるんじゃないかな？

**記者B** それはあるはずですよ、絶対。新型コロナウイルスの影響で、氣息奄々になるかと思われた飲食の業界に、宅配システムなどで新たな潮流が生まれてきたりしています。ああいう事例が如実に物語っているように、物事は何でもマイナス面が生じれば逆にプラス面も出てくるというのが道理ですからね。

**記者C** 問題は、じゃあ、建設業界や電気設備業界にはどのような大逆転の芽があるのか、それが重要ですよ。

**記者D** たとえば建設や電設は長いあいだ、3K 職業と言われてきましたけど、新型コロナウイルスの発生によって、どこにしようと、何をしようと、ウイルスに感染したら何らかの病気になるんだという認識が改めて国民のあいだに広まりました。それは、従来の常識で考えられていた「危険」だとか「汚い」だとかいう、目に見える「K」というのは、実はたいしたことじゃない、ということに繋がっていくのではないかと思うんですけど、我田引水が過ぎますか？（笑）

**記者A** そうは思わないけど、最近の建設現場は安全第一でやっているところばかりだから、かつてのような3Kイメージはもはや誤解の域になっているとっていいよね。そうしたかつての3Kイメージの払拭がうまくできていなかっただけで。

**司会者** A記者がいうように、実態が知られていない

のは事実だよ。本当の姿を業界側が有効に発信できていなかったという側面も確かにある。その理由としては、見た目の部分でのアピールしかやりようがなかったということも大きいと思う。だからD記者のいうように、危険は見た目ではわからない、という意識が浸透しつつある現在は、新しいイメージアップの方法が可能になるのではないかな。その考え方も実によくわかる。

**記者C** そうですね。それにこういうことは我田引水でもなんでもいいと思うんです、逆に。とにかく発信していくことが大切ですから。そういう意味で、建設業界や電気設備業界はこれまで、有効な成果は挙がってなかったにしろ、決して3Kじゃないという部分をアピールするための努力はかなりしてきていると思います。その成果を今こそ、大々的に発信したらいいんじゃないかな。

**司会者** なるほどね。新型コロナウイルスの影響で衛生面の問題にやたらと関心が高まりつつある現在なら、逆にこれまでの建設・電設業界の努力のアピールは伝わりやすくなっているかもしれないね。

**記者D** それぞれ、それをいいたかったのです（笑）。そうしたこれまでの努力の成果をベースに、さらに現場で現在行っているマスクやフェイスシールドの徹底、消毒関係の各種の措置、さらには暑熱対策の空調服の導入をはじめとする各種の対策などをアピールしていけば、建設業界や電設業界は非常に安全面の基準や、衛生面の基準が想像以上に厳格だし、働いている人のためを思っている措置も多彩に行われていると。そういう良いイメージが一般に浸透していけば、たとえば就活する本人もですが、親御さんが喜ぶんじゃないですかね。

**記者A** 最近の就活生は親御さんのいうことを割によ